

平成23年度当初予算案の規模

一般会計の規模は 8,400 億円 (対前年度比 +0.0%)

総会計では 1兆 1,176 億円 (対前年度比 3.6%)

- 一般会計の規模は、今年度から新たに導入するみやぎ環境税活用事業の新設や順調な企業進出に伴う企業立地奨励金の増加、国民健康保険、介護保険、後期高齢者医療制度、生活保護などの社会保障関係費の大幅な増加といった要因がある一方で、国直轄事業をはじめとした公共事業の減少や中小企業の資金需要減に合わせた制度資金融資枠の縮小などにより、全体では前年度並となったもので、過去10年間では最大の予算規模
- 特別会計の規模は、公債費特別会計における一般会計借換債の大幅減などにより、減少したもの
- 準公営企業会計の規模は、港湾整備事業特別会計における償還増などにより、増加したもの
- 公営企業会計の規模は、県立病院が平成23年度から独立行政法人に移行することに伴う病院事業会計の廃止、工業用水道事業会計における仙南工業用水道事業の廃止などにより、大きく減少したもの

(単位：百万円，%)

| 区分 | 22年度 | 23年度 | 増減額 | 増減率 |
|---------|-----------|-----------|--------|------|
| 一般会計 | 839,635 | 840,034 | 399 | 0.0 |
| 特別会計 | 236,704 | 224,969 | 11,736 | 5.0 |
| 準公営企業会計 | 21,186 | 24,167 | 2,981 | 14.1 |
| 公営企業会計 | 61,531 | 28,470 | 33,061 | 53.7 |
| 計(総会計) | 1,159,056 | 1,117,640 | 41,416 | 3.6 |

四捨五入のため、積み上げと計の一致しない箇所がある

【一般会計予算規模の推移(当初予算)】

(単位：億円，%)

| 区分 | H14 | H15 | H16 | H17 | H18 | H19 | H20 | H21 | H22 | H23 |
|-----|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|
| 規模 | 8,138 | 8,215 | 8,257 | 8,186 | 8,149 | 7,985 | 7,841 | 8,363 | 8,396 | 8,400 |
| 増減率 | 4.1 | 0.9 | 0.5 | 0.9 | 0.5 | 2.0 | 1.8 | 6.7 | 0.4 | 0.0 |

歳入の状況（一般会計）

1 県税

県税収入は 2,240 億円（対前年度比 + 6.6%）

- ・ 税額で最も多い個人県民税は、個人所得の減少により、対前年度比 1.8%の減
- ・ 法人事業税、法人県民税の法人二税は、企業業績の回復により、対前年度比 26.2%の増
- ・ このうち、みやぎ発展税（法人事業税の超過課税）は、28億9千万円
- ・ 今年度から新たに導入する、みやぎ環境税（個人県民税及び法人県民税の超過課税）は、13億9千万円
- ・ 地方消費税は、企業を中心とした消費の回復により、対前年度比 9.8%の増
- ・ 軽油引取税は、物流の回復等により、対前年度比 9.1%の増

（単位：百万円，%）

| 区 分 | 22年度 | 23年度 | 増減額 | 増減率 | 増減理由 |
|-------|---------|---------|--------|------|---------|
| 個人県民税 | 65,232 | 64,059 | 1,173 | 1.8 | 個人所得の減少 |
| 法人二税 | 39,994 | 50,505 | 10,511 | 26.3 | 企業業績の回復 |
| 地方消費税 | 30,900 | 33,940 | 3,040 | 9.8 | 消費の回復 |
| 軽油引取税 | 21,371 | 23,310 | 1,939 | 9.1 | 物流の回復 |
| その他の税 | 52,603 | 52,186 | 417 | 0.8 | |
| 計 | 210,100 | 224,000 | 13,900 | 6.6 | |

2 地方譲与税

地方譲与税は 313 億円（対前年度比 + 18.9%）

- ・ 地方法人特別譲与税は、企業業績の回復により、対前年度比 20.9%の増

（単位：百万円，%）

| 区 分 | 22年度 | 23年度 | 増減額 | 増減率 |
|-----------|--------|--------|-------|------|
| 地方法人特別譲与税 | 23,717 | 28,676 | 4,959 | 20.9 |
| その他の譲与税 | 2,628 | 2,652 | 24 | 0.9 |
| 計 | 26,345 | 31,328 | 4,983 | 18.9 |

3 地方特例交付金

地方特例交付金は 26 億円（対前年度比 21.0%）

- ・ 所得税の年少扶養控除の廃止等に伴う交付税財源の増額により、児童手当及び子ども手当特例交付金は、対前年度比33.5%の減
- ・ 住宅借入金等特別税額控除に伴う減収補てん特例交付金は、対前年度比39.1%の増

（単位：百万円，%）

| 区 分 | 22年度 | 23年度 | 増減額 | 増減率 |
|------------------|-------|-------|-----|------|
| 児童手当及び子ども手当特例交付金 | 2,772 | 1,843 | 929 | 33.5 |
| 減収補てん特例交付金 | 578 | 804 | 226 | 39.1 |
| 計 | 3,350 | 2,647 | 703 | 21.0 |

4 地方交付税

地方交付税は 1,807 億円（対前年度比 +4.5%）

- ・ 地方交付税は、国における別枠加算の維持や繰越金の活用等により、対前年度比4.5%の増
- ・ 地方交付税の振り替わりである臨時財政対策債を合算した実質的な地方交付税の額は、対前年度比1.8%の減

（単位：百万円，%）

| 区 分 | 22年度 | 23年度 | 増減額 | 増減率 |
|-------|---------|---------|-------|-----|
| 地方交付税 | 173,000 | 180,700 | 7,700 | 4.5 |

| | | | | |
|--------------------------|---------|---------|--------|------|
| 臨時財政対策債 | 81,200 | 69,000 | 12,200 | 15.0 |
| 実質的な地方交付税 （交付税 + 臨財債） | 254,200 | 249,700 | 4,500 | 1.8 |

5 県債

県債は 1,093 億円（対前年度比 16.8%）

- ・ 臨時財政対策債は、全国的な税収や地方交付税の増額により地方一般財源総額が確保されることから、対前年度比 15.0%の減
- ・ これまでやむを得ず発行してきた退職手当債は、将来負担の軽減を念頭に発行をとりやめ
- ・ 投資的経費に充当する建設地方債のうち通常債は、補助公共事業や国直轄事業の減少により、対前年度比 4.3%の減
- ・ 建設地方債のうち通常の充当率を上回る部分などに充当する行政改革等推進債等は、充当対象事業の増加により、対前年度比 4.8%の増

（単位：百万円，%）

| 区 分 | 22年度 | 23年度 | 増減額 | 増減率 |
|----------|---------|---------|--------|------|
| 臨時財政対策債 | 81,200 | 69,000 | 12,200 | 15.0 |
| 退職手当債 | 8,500 | - | 8,500 | 皆減 |
| 建設地方債 | 41,778 | 40,330 | 1,448 | 3.5 |
| 通常債 | 37,940 | 36,309 | 1,631 | 4.3 |
| 行政改革推進債等 | 3,838 | 4,021 | 183 | 4.8 |
| 計 | 131,478 | 109,330 | 22,148 | 16.8 |

四捨五入のため、積み上げと計の一致しない箇所がある

6 繰入金（財源対策分）

基金からの繰入金は 100 億円（対前年度比 皆増）

- ・ 平成22年度に計上した退職手当債や株式売却による財源確保対策の代わりに、財源不足を補うため財政調整基金から2年ぶりに繰り入れ

（単位：百万円，%）

| 区 分 | 22年度 | 23年度 | 増減額 | 増減率 | 備 考 |
|-----------|------|--------|--------|-----|--------------|
| 財政調整基金繰入金 | - | 10,000 | 10,000 | 皆増 | 23年度末残高 92億円 |

歳出の状況（一般会計）

（単位：百万円，％）

| 区 分 | 2 2 年度 | 2 3 年度 | 増減額 | 増減率 | 備 考 |
|--------|---------|---------|--------|------|-----|
| 義務的経費 | 392,787 | 399,754 | 6,967 | 1.8 | |
| 人件費 | 267,697 | 270,728 | 3,032 | 1.1 | |
| 扶助費 | 28,601 | 29,244 | 643 | 2.2 | |
| 公債費 | 96,490 | 99,782 | 3,292 | 3.4 | |
| 投資的経費 | 106,992 | 100,069 | 6,923 | 6.5 | |
| 補助事業 | 55,029 | 56,270 | 1,241 | 2.3 | |
| 単独事業 | 24,014 | 28,810 | 4,796 | 20.0 | |
| 国直轄事業 | 27,949 | 14,990 | 12,959 | 46.4 | |
| 一般行政経費 | 272,959 | 267,682 | 5,277 | 1.9 | |
| 県税交付金等 | 66,896 | 72,529 | 5,633 | 8.4 | |
| 計 | 839,635 | 840,034 | 399 | 0.0 | |

補助事業及び単独事業には受託事業を含む。また、四捨五入のため、積み上げと計の一致しない箇所がある

1 義務的経費

義務的経費は 3,998 億円（対前年度比 + 1.8％）

- ・ 歳出全体に占める構成比は 47.6％
- ・ 人件費は、平成 22 年度県人事委員会勧告に基づく期末手当等の支給割合引き下げ等による減額の方、平成 22 年度まで 2 年間継続実施した職員給料の削減終了により、対前年度比 1.1％の増
- ・ 扶助費は、厳しい経済状況を反映し生活保護扶助費などの社会保障関係費の増加により、対前年度比 2.2％の増
- ・ 公債費は、県立病院の独法化による病院機構分の償還費増により、対前年度比 3.4％の増

2 投資的経費

投資的経費は 国直轄事業の大幅減により 1,001 億円（対前年度比 6.5％）

- ・ 補助事業は、国の 2 年連続の公共事業費縮減があったものの、介護基盤緊急整備など国の経済対策で設置した各種基金を活用した事業の大幅増により、対前年度比 2.3％の増
- ・ 単独事業は、消防学校や警察機動センターなどの整備により、対前年度比 20.0％の増
- ・ 国直轄事業は、国営土地改良事業大崎地区・鳴瀬川地区の地元負担金償還の完了や国の公共事業費縮減により、対前年度比 46.4％の大幅減

【補助事業・単独事業の内訳】 (単位：百万円，%)

| 区 分 | 2 2 年度 | 2 3 年度 | 増減額 | 増減率 |
|---------------|--------|--------|--------|------|
| 補 助 事 業 | 55,029 | 56,270 | 1,241 | 2.3 |
| 公 共 | 40,901 | 38,241 | 2,660 | 6.5 |
| 災 害 復 旧 | 4,189 | 3,097 | 1,092 | 26.1 |
| その他(国基金事業を含む) | 9,938 | 14,932 | 4,994 | 50.2 |
| 単 独 事 業 | 24,014 | 28,810 | 4,796 | 20.0 |
| 公 共 | 10,871 | 9,923 | 948 | 8.7 |
| 災 害 復 旧 | 234 | 252 | 18 | 7.8 |
| そ の 他 | 12,910 | 18,635 | 5,725 | 44.3 |
| 計 | 79,043 | 85,080 | 6,037 | 7.6 |
| 公 共 | 51,772 | 48,164 | 3,608 | 7.0 |
| 災 害 復 旧 | 4,423 | 3,349 | 1,074 | 24.3 |
| そ の 他 | 22,848 | 33,567 | 10,719 | 46.9 |

受託事業を含む。また、四捨五入のため、積み上げと計の一致しない箇所がある。

【国直轄事業の内訳】 (単位：百万円，%)

| 区 分 | 2 2 年度 | 2 3 年度 | 増減額 | 増減率 |
|-------------|--------|--------|--------|------|
| 国土交通省所管分 | 12,889 | 8,725 | 4,164 | 32.3 |
| 農林水産省所管分 | 15,061 | 6,264 | 8,797 | 58.4 |
| うち土地改良償還負担金 | 14,421 | 5,599 | 8,822 | 61.2 |
| 計 | 27,949 | 14,990 | 12,959 | 46.4 |
| 土地改良償還除きの実質 | 13,529 | 9,391 | 4,138 | 30.6 |

災害復旧事業を含む。また、四捨五入のため、積み上げと計の一致しない箇所がある。

3 一般行政経費

一般行政経費は 2,677億円 (対前年度比 1.9%)

- ・ 「政策財政運営の基本方針」に基づき、雇用創出、次世代の育成、安心できる生活環境の確保、持続的な社会の構築等の特に力を入れるべき取組について重点的に予算化
- ・ 新たに導入するみやぎ環境税を活用し環境施策を一体的・複合的に展開
- ・ 農林水産業を取り巻く厳しい経営環境のもと、競争力・販売力の強化と県産農林水産物の消費拡大に対応
- ・ 国の経済対策により設置した基金を活用し、緊急の雇用創出、福祉・介護等関係職員の処遇改善、障害者の自立支援、子育て支援、医療の充実、さらには子宮頸がんワクチン等の接種など喫緊の課題に迅速に対応
- ・ 景気動向を踏まえた中小企業等の資金需要にあわせ、制度融資枠を縮小

財源確保対策

- 第3期財政再建推進プログラムに基づく歳入確保、歳出抑制対策を着実に実施することにより、巨額の財源不足額を解消

(単位：億円)

| 区 分 | 2 3 年 度 財源確保額 | 内 容 |
|-------------|------------------|--|
| 歳入確保対策 | 5 4 | |
| 県債の活用 | 4 0 | 行政改革推進債 3 2 億円 地方道路整備臨時貸付金債 8 億円 |
| 各種基金の活用 | 7 | 特定目的基金の取崩し |
| 県有資産の有効活用 | 6 | 未利用財産の売却等 4 億円 広告掲載収入、命名権収入 2 億円 |
| 他会計資金の活用 | 1 | 農業改良資金特別会計等 |
| 歳出抑制対策 | 1 1 3 | |
| 人件費総額の抑制 | 1 4 | |
| 事務事業の見直し | 2 1 | |
| 特別会計繰出金の見直し | 2 7 | 港湾整備事業特別会計 2 6 億円 土地区画整理事業特別会計 1 億円 |
| 公債費負担の平準化 | 5 | 償還方式の見直し |
| 将来的な財政負担の縮減 | 4 6 | 公共事業キャップ制の継続 |
| 計 | 1 6 7 | |